

週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月21日(火)

《希望を持って耐えましょう - 喜びのあるみ言葉の実践 - 》

今日の第一朗読(エフェソ 4・1 7、11 13)は、一つ一つみんな重要な意味を持っている箇所です。ご自宅に帰られたら、もう一度ゆっくり読んでいただきたいと思います。

さあ、仏教では、今私たちが住んでいる世界を何と言いますか？ 現世とも言いますが、サンスクリット語(梵語)で『娑婆(しゃば)(sabhā)』と言いますね。聞いたことがありますよね。この『娑婆』の意味は何でしょうか。「耐えながら生きる世界」の意味です。つまり、なめらかに生きられる世界ではありません。『娑婆』いわゆる私たちが現世と言っているこの世界は、耐えながら生きなければならぬ世界です。朝、目が覚めて起きる時に「もう少し寝ていたい」という衝動を感じますが、それに耐えて起きなければなりません。その他にも、24時間ほとんど耐えなければならないことがあると思います。したくても、してはいけないことがあります。したくなくても、しなければならぬこともあります。1日24時間のほとんどは、「耐えながら生きる」ように与えられているのではないのでしょうか。しかし、それではおもしろくないですね。

では、福音的には、この世はどのような世の中なのでしょう。仏教の観点で見たら、「耐えながら生きる世界」です。少し重さを感じますね。カトリック的な解釈でも、「耐えながら生きる」というのは全く同じですが、その前提に『希望』があります。つまり、この世の中は、ただ耐えながら生きるのではなくて、希望を持って楽しみながら生きるのが福音的なのです。そして「楽しみながら」の意味は、よく考えなければならぬところです。食べたり、飲んだり、遊んだりすることも「楽しむ」ことですが、福音的な「楽しむ」は、そうではないでしょう。生き甲斐を感じて生きることを「楽しむ」人生と言うのです。関わりが充実していて、その結果意味を感じられたら、それが「楽しむ」人生になるのです。

今日の福音(マタイ 9・9 13)の話に入ります。私たちは大体、頭の中では“自分は賢い”と思っています。“自分は賢くない”と思う人はあまりいないでしょう。むしろ、“自分は賢くない”と思う人がいれば、その人は『劣等感』という病気かもしれない。しかしほとんどの人は、自分の頭が賢いと思い、自分の秤で「これが正しい」、「これが悪い」、「これを選んだほうがいい」、「これをとったほうが利益になる」などと判断して生きています。認めますか？ 認めなければなりません。しかし、「自分は賢い、知恵がある、一番頭がよい」と思って、人を軽んじていても、今日の福音を読みますと、実は知恵とは全く反対の生き方をしているのではないかと思わされます。

今日の福音では、徴税所に座っていたマタイにイエス様が呼びかけ、手を伸ばします。手を伸ばされたとたんに、彼は立ち上がってついて行きます。その確信はどこから来るのでしょうか。その決断力はどこから来るのでしょうか。一度も会ったことのない人物に誘われて「はい！分かりました。」と

答える心の働きをどのように理解すればよいのでしょうか。持っていた財産を全部捨てて、その道に従う心の働きは、どのように解釈ができるのでしょうか。そして私たちはどうでしょうか。本当に“イエス様のために捨てた”と言えるものがあるのでしょうか。もしかして、子どもの時からの癖さえ全部保ったまま「私はあなたに従っています。」と言っているのではないのでしょうか。自分の傲慢さ、いつも自分が中心になって世界を見る癖さえ全く捨てないで、「あなたに従っています。」「信仰の生活をしています。」「私は救われた者です。」という自信満々な話をしているのではないのでしょうか。これは皆様だけに話しているのではなくて、私も含めて話しているのです。

皆様、私たちは、決断して従い、歩んでいるこの道に、どのくらい忠実になっているのでしょうか。今日イエス様は「**医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。**(医者は、丈夫な人ではなく、病者、丈夫でない人のために必要である)」とおっしゃっています。そして最後に「**わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。**(私は丈夫でない人、罪人のためにこの世の中に来た)」とおっしゃっています。では、私たちはどちらのグループに属しているのでしょうか。丈夫な人のグループに属しているのでしょうか。それとも病者のグループに属しているのでしょうか。もし本当に救いの道を歩もうとするのなら、自分の病氣、弱さを認めなければなりません。自分の弱さを認めることができれば、へりくだる心を持つことになります。いつもへりくだる、人を見上げる心があれば、私たちには医者、救い主は要らないのです。

皆様、よく考えてみてください。毎日福音に接していても、本当に福音的な生活はどのくらい身についているのでしょうか。それを考えると自然に頭が下がります。

今日の福音で、ファリサイ派の人々は、イエス様の弟子たちに「なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか。」と言っています。この福音は、正しい生き方をしていると自慢に思っているファリサイ派の人々に、イエス様がおっしゃった話です。ある意味で、イエス様のみ言葉が最も必要なのは、このファリサイ派の人々だったのでしょうか。私たちは絶対にファリサイ派の人々のやり方、考え方になってはいけません。しかし、無意識のうちにファリサイ派の人々と同じ振る舞い方になっているのかもしれない。私たちにも、立ち上がってイエス様について行ったマタイの心の働きが体験できれば、何という幸いかと思います。しかしほとんどの人間は、利益を求めながら損になる道を歩んでいるのが事実です。

この世は、「耐えながら生きる世界」かもしれません。しかし、私たちにはそうではありません。私たちはいつも希望を持って、必要な十字架を負います。耐える理由があるから耐えます。ただ耐えるだけが人生だったら、私たちは生きる意味を失います。

皆様、もう一回考えてみましょう。私たちには、本当に楽しみながら、喜んでみ言葉の意味を実践しようとする生き方が必要です。皆様、祈ってください。「私は弱いです。私には、足りるところは一つもありません。」という祈りによって、神様のみ言葉が私たちの心の中にしみ込むと私は確信します。

ありがとうございました。